

「笑顔あふれる清水っ子」を育む
揖斐川町立清水小学校

本校では、「きよらかな心で よく考え みずから活動する子」を教育目標に掲げ、児童一人一人が主役となる学校づくりに取り組んでいます。少人数、複式学級という特色ある環境を強みに、子どもたちが毎日を笑顔で過ごすことができる教育の実現を目指しています。

1 よりよく生きる力の育成

1点目の柱は、子どもたちが主体的に行動し、仲間と共に成長する「よりよく生きる力」の育成です。本校が特に重視しているのが異年齢活動の推進です。全校児童が兄弟姉妹のように関わる活動を通し、上級生は下級生への思いやりを育み、下級生は上級生の姿に憧れを抱きます。この心のつながりこそが、自律心や責任感を育てる土壌となっています。自分たちで考え、行動し、挑戦する。その積み重ねが、困難に立ち向かい、よりよい未来を切り拓く力へとつながっていきます。

2 一人一人の学びの保障

2点目の柱は、「一人一人の学びの保障」です。本校には複式編制の学級がありますが、これを個別最適な学びを実践する機会として捉えるとともに、教育課程の工夫として全学年で教科担任制を導入し、教員の専門性を活

かし、多角的な視点で子どもたちを支援しています。また、ICT機器を効果的に活用し、自分の考えの可視化や仲間との瞬時の共有を行うなど、小規模校ならではの深い学びの実現に努めています。

3 「ふるさと学習」の実践

3点目の柱は、「ふるさと学習」です。清水の歴史や伝統に触れ、体験を通して学ぶ活動を展開しています。この学習を支えているのは、地域の皆さまや外部団体との強固な連携です。地域の先生方から直接学ぶ経験は、教科書だけでは得られない喜びと感動をもたらします。ふるさとである清水に感謝し、この地に誇りと愛着をもつこと。それが自己肯定感を高め、将来どこへ羽ばたいても自分を支えてくれる「心のよりどころ」となると信じています。

学校の主役は、いつでも子どもたちです。どの子も「学校が楽しい」と感じられるよう、児童を教育の中心に据え続けます。これからも、保護者・地域の皆さまと共に、子どもたちの「きよらかな心」と健やかな成長のために力を尽くしてまいります。



地域に愛される学校
揖斐川町立小島小学校

1 FBCに取り組む小島小学校

令和7年5月に「ぎふワールドロズガーデン」にて全国都市緑化祭が開催され、都市緑化宣言の代表校として、県内5圏域の中から小島小学校が選ばれました。それは、昭和62年以降30年の長きにわたりFBC（フラワーブラボーコンクール）に参加している実績が高く評価されたからです。



式典では、佳子内親王殿下と一緒に記念樹を植樹する代表にも選ばれました。歴代の在校生の皆さんのこれまでの地道な努力のおかげであると感謝しています。

特色ある教育活動の一環として花づくりが位置づいているのは、美しい花を咲かせる活動を通して、優しく思いやりのある心と自然を大切に育てたいというねらいがあるからです。そんなFBCの取組のおかげで、小島小学校の児童は、自然を愛し、優しく思いやりあふれる子ばかりです。

2 地域に支えられている小島小学校

小島地区には、「地域づくり協議会」という組織があります。その中の一つ、「人づくり部会」では、学校支援や地域リーダー育成についての話し合いが毎月行われています。

ふるさと学習や学校田、花づくり、除草などで小学校や子ども達を応援し、子どもたちの学びや成長を支えていただいています。特に、ありがたいのは、夏季休業中のイベントです。学校が休みになる長期休業中の子ども達の受け皿として、「わくわくBASE」という様々なイベントが行われます。自習ができたり、読書感想文、習字、ポスター、理科実験などもできたりする教室があり、地域の人からいろいろなことを直接教えていただける環境が整っています。その他にも、職業体験、カヌー体験、着衣泳体験、歴史ウォーキング、おじまあーるカフェなどたくさん体験もできます。



地域の将来を担う子どもたちは地域で育成するという熱い思いに支えられ、「自ら学ぶ意欲をもち、明るく元気な子ども」という小島の教育目標とぴったりの様々な体験をさせていただいています。

みんなであらう! これからの学校教育の在り方。

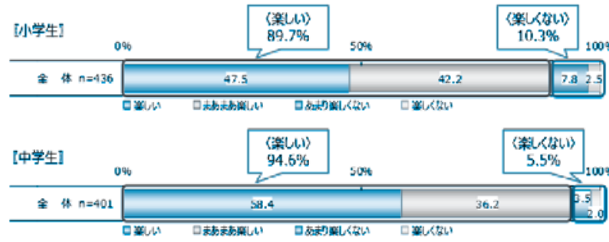


揖斐川町学校教育の
在り方審議会
ホームページ

- 学校が「楽しい」と回答した子どもたちについては、小中学生ともに、「友達と過ごすこと」や「休み時間」が楽しいと思っている割合が高い。

区分	一般住民	小学生	中学生	教職員
有効回答数	1,058 件	436 件	401 件	215 件
有効回答率	52.9%	98.9%	96.4%	77.3%

《学校は楽しいか》(小学生・中学生)



今回は、揖斐川町の教育に関する住民の皆さんの考えや意見を把握し、これからの学校教育の在り方を検討することを目的に行ったアンケート調査の結果を報告します。

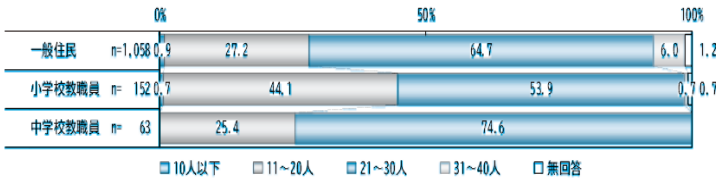
「これからの学校教育の在り方に関するアンケート調査」結果報告

《子どもたちのために必要だと思う教育環境》(一般住民・教職員)

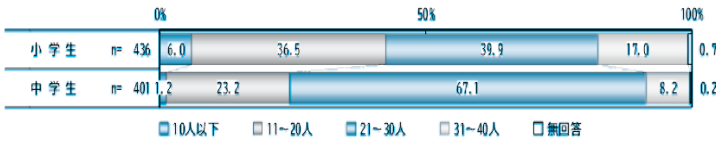
一般住民 (n=1,058)			教職員 (n=215)		
1 位	多くの仲間と関わりながら、切磋琢磨することができる環境	58.0%	1 位	多くの仲間と関わりながら、切磋琢磨することができる環境	65.1%
2 位	地域の人たちとの交流の機会が多く、地域全体で育むことができる環境	35.6%	2 位	一人ひとりに先生の目が行き届き、きめ細かな指導を受けることができる環境	47.9%
3 位	一人ひとりに先生の目が行き届き、きめ細かな指導を受けられる環境	35.3%	3 位	学校行事等で、一人ひとりが役割をもち、多くの活躍できる場がある環境	43.7%
4 位	学校行事等で、一人ひとりが役割をもち、多くの活躍できる場がある環境	30.6%	4 位	たくさんの先生による、多様な教育や指導を受けられる環境	40.9%
5 位	様々な本やICTの機器などが充実し、学びたいことを深く学べる環境	30.4%	5 位	様々な本やICTの機器などが充実し、学びたいことを深く学べる環境	28.4%
8 位	たくさんの先生による、多様な教育や指導を受けられる環境	16.6%	6 位	地域の人たちとの交流の機会が多く、地域全体で育むことができる学校	27.4%

- 子どもたちのために必要だと思う教育環境については、一般住民および教職員ともに「多くの仲間と関わりながら、切磋琢磨することができる環境」が他の項目に比べて高かった。また、きめ細かな教育環境や活躍の場、学習方法の充実に関する項目も高い傾向にある。

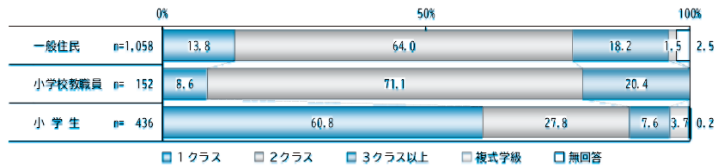
《1クラスあたりの適切な児童数・生徒数》(一般住民・教職員)



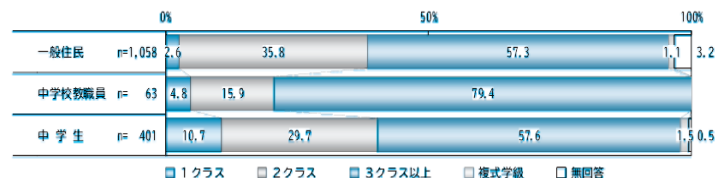
《1クラスあたりの適切な児童数・生徒数》(小学生・中学生)



《小学校1学年あたりの適切なクラス数》(一般住民・教職員・小学生)



《中学校1学年あたりの適切なクラス数》(一般住民・教職員・中学生)



- 1クラスあたりの適切な児童生徒数については、一般住民、教職員、小中学生のいずれも<21~30人>が最も高く、次いで<11~20人>の順となった。

現在、岐阜県では、すべての公立小中学校の全学年において35人学級編制を実施している。
町内の小学校は、学年1クラスまたは複式で編制している。中学校は、学年3クラス、2クラス、1クラスで編制している。
町内の全小中学校における「通常の学級」の平均在籍者数は17人となっており、学校の小規模化が進んでいる。

- 小学校における1学年あたりの適切なクラス数については、一般住民および小学校教職員は「2クラス」が、小学生は<1クラス>が60%以上を占めている。ただし、一般住民については、年齢別にみると、30~39歳は<2クラス>が他の年齢層に比べて高くなっている。

- 中学校における1学年あたりの適切なクラス数については、一般住民および中学校教職員、中学生いずれも<3クラス以上>が最も高くなっている。ただし、中学生については、学年別にみると上位学年ほど<3クラス以上>が上昇している。